



## NO.29

2014年12月発行

幌北まちづくりセンター

北区北16条西4丁目北晴北16ビル

(1月末まで上記の住所に移転しています。)

TEL726-6345 FAX726-2765

<http://www.city.sapporo.jp/kitaku/machi/center/horokita/index.html>

### 赤い羽根共同募金運動



10月1日(水曜日)から全国一斉に「赤い羽根共同募金運動」が始まりました。共同募金会では、昨年度から「地域から孤立をなくそう～みんなが社会の一員として包み支え合うしくみづくり」を全国共通のテーマとして掲げています。幌北地区では、5日(日曜日)までの5日間に老人クラブの幌北ほぶら会・幌北不老会と民生委員児童委員協議会の皆さんが地下鉄北18条駅の前で活動を行い、多くの募金が集まりました。この寄付金は、共同募金会と社会福祉協議会などが連携し、さまざまな地域福祉活動に役立てられます。



## 区民と市長が語り合う～「ふらっとホーム 2014in 北区」を開催

10月6日(月曜日)午後7時から、札幌サンプラザ(北区北24条西5丁目)で「ふらっとホーム 2014in 北区」が開催された。これは、区民と上田文雄(うへだふみお)札幌市長が気軽に意見交換することを目的に各区で開催しているもので、対話者6人が上田市長らと市政やまちづくりについて語り合った。

この日(6日)は、「町内会や地域での活動に関すること」「地震・火災・水害などの防災対策に関すること」「冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致について」の3つのテーマについて意見を交わした。防災対策に関することでは、対話者から学生と町内会が協力して地域の防災マップを作る取り組みなどが紹介され、より地域の連携を高める必要があるのではないかなどの意見が出された。また、冬季オリンピック・パラリンピックについては、次世代を担う子どもたちのためにも総合的な視点で判断すべきという意見が出されるなど、活発な意見交換が行われた。

上田市長は「みなさんのいろいろな意見を聞くことができうれしく思います。困ったことや何かやりたいことがある時は、区役所やまちづくりセンターを活用していただければ」と話し、参加者の一人は「今日は市の取り組みや各地域の取り組みを知ることが出来て、とても良い機会になりました。これからは地域の活動などに積極的に参加していきたいと思います」と話した。



## 高齢者福祉バス事業



10月9日(木曜日)、幌北地区社会福祉協議会主催による高齢者福祉バス事業として「北海道開拓の村」を訪れました。この事業は幌北地区にお住まいの高齢者の方々を対象に健康づくりと交流を兼ねて実施しているもので、3年目となる今年は第9～11町内会の皆さんなど35名が参加しました。現地では明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の建造物を移築復元・再現した野外博物館をボランティアの方に解説してもらいながら見学しました。その後「里塚温泉」で心地よい疲れを癒し交流を深めました。

## 日赤奉仕団幌北分団から雑巾の寄贈がありました

10月15日(水曜日)、日赤奉仕団幌北分団の皆さんから雑巾が寄贈されました。

寄贈いただいたた沢山の雑巾は、まちづくりセンターで大切に使用させていただきます。



## 女性文化講演



11月4日(火曜日)札幌サンプラザで、地域活動について学び、考えることを目的として、「女性文化講演」が開催されました。この講演は、札幌市北区連合町内会女性部連絡協議会の主催により行われたもので、幌北地区からは女性部のみなさんが参加しました。

講師に札幌国際大学人文学部非常勤講師丹野和子氏をお招きし、「地域で助け合うということ」という演題のもと、必要な支援やいま私たちにできることはどういうことかという疑問を投げかけながら、わかり易くお話しされていました。ご自身の経験談も交えたユーモア溢れる講師の言葉にみなさん大きくなすきながら、熱心に耳を傾けていました。

## 避難所運営ゲームに参加しました

11月6日(木曜日)北区のまちづくりに関係する町内会や各団体などで構成されている”北区まちづくり協議会”の第2回全体会で、避難所運営の模擬体験ゲームが行われ、幌北地区からは永野拓也連合町内会長、北区防火委員会の高橋孝行会長(幌北連合町内会防災部長兼)が参加しました。

このゲームは避難所の開設・運営をみんなで考えるための一つの方法として静岡県が開発したもので、避難者に見立てた年齢や性別、国籍など様々な事情が書かれたカードを避難所である体育館や校舎の平面図上でどれだけ適切に配置できるか、また避難場で起こる様々な出来事はどう対応していくかを模擬体験するゲームです。参加者たちは互いにアイデアを出し合い相談しながら真剣に取り組んでいました。



避難所運営ゲームの様子

## 幌北ウォーキング大会



11月11日(火曜日)午前9時30分から、北海道大学構内で「第5回幌北ウォーキング大会」が開催され、児童や地域の方々、学生など約160名が参加しました。これは地域との交流や健康づくりを目的とし、幌北小学校5年生が幌北連合町内会や「学生と地域で考えるまちづくり会」NeoLos(ネオロス)幌北と協力して準備を進めてきたものです。児童たちは、事前に調べた北大の歴史やウォーキングの効果などを載せたしおりを作成し配布したほか、当日の受付や開会式の司会などを行いました。

参加者はラジオ体操をしたあと、12のグループに分かれて1時間半ほど歩きました。天候にも恵まれ、みなさん紅葉を眺めながら世代を超えた交流を深めていました。閉会式では参加者の感想を発表する場も設けられ、「普段あまり触れ合うことのない地域の方々と触れ合うことができよかった。」と笑顔で話していました。

## がんミニ講演会



11月13日(木曜日)幌北まちづくりセンターで「がんミニ講演会」が開催されました。

近年、日本人の死亡原因第一位はガン。その予防・制圧のための普及活動にはコミュニケーション力や説得力のある女性の力が不可欠であると、公益財団法人北海道対がん協会の長瀬会長が幌北連合町内会女性部に呼びかけ、同町内会女性部のほか町内の女性約20名が参加しました。

医療の進歩により効果的な薬や治療器具などが開発され、今や早期発見・治療で治る確率が高くなっていることやがんを誘発する生活習慣などの説明に、参加者たちも積極的に質問を行い理解を深めました。また、参加者の皆さんは北海道の女性の喫煙率が長い間全国一位で4人に1人が喫煙者であることやがんの早期発見の重要性を改めて認識し、今日聞いた話を多くの人に伝え、がん検診受診者を増やすべく決意を強めていました。